編集後記：今年の夏も全国的に猛暑となりましたが，夏休みはいかがでしたか．私の勤めている大学では，公開講座として子供向けの天気図講座を開講しました．ラジオの気象通報を聴いて天気図をかくというものですが，自由研究で天気図をかいてみたいと思っている子は多いようで，満員になるほどの盛況でした．関東地方の場合，今年の夏は７月中旬までは低温，梅雨明けは遅かったが，梅雨明け後は猛暑，この原稿を書いている８月下旬の時点ではまだ暑いもののそろそろ秋の気配，といったところでしょうか．日々の天気図を順に見ていくとこういった天候の変化を気圧配置で説明することができます．小中学校では「西から東へ移り変わる天気」に重点が置かれるため，夏の天気は詳しく学習していないことが多いのですが，時間変化が遅い分，１日１枚の天気図で理解できる側面も実は多いように感じます．中高生向けの講座なら500 hPa 天気図を使って，上空の寒気や小笠原高気圧の動向まで見ていきます．時間変化が緩やかなので，持続予想や単純外挿でもそれなりに翌日の天気を予想できます．災害さえ起こらなければ気象はおもしろいものです．何でもコンピュータが自動でやってくれる時代になりつつありますが，警報が出たら避難する，で終わっていてはつまらないと思います．上に書いた天気図講座，この講座をきっかけに気象に目覚めて，今は気象大学校を目指して勉強されているという子もいるそうです．何年か前からラジオの気象通報は１日１回になってしまいましたが，より多くの若い人が天気図や気象に親しんでくれるとよいですね．

（佐藤尚毅）